科目名			担当教員	
特講・社会福祉学１ （介護保険と社会福祉士の課題）			佐々木　裕彦	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DT2201	1	1	S (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		試験（スクーリング含む）　：　C		

※2026 年度と 2027 年度に開講の科目です。
※受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

科目の概要

■科目の内容

介護保険自体の講義ではありません。皆さんの、これまでの、そしてこれからの学びが「実践現場でどのように活用されるか」と「介護保険が向かう近未来に必要な方法論」を学ぶ講義です。自ら経験した 40 年間の「ソーシャルワーク実践」について、施設福祉、在宅福祉、地域福祉の流れの中で、出会わざるを得なかった事件と、学ばざるを得なかった理論と、作り上げてきた仕組みをご紹介します。

前半は、ジェネラリストソーシャルワークの、価値・知識・技術の一体的・体系的な構造化について、高齢者施設における職種連携システムとしての、ソーシャルワークのシステム化の実践例をご紹介します。また、その実践システムの中で、他職種への説明責任を果たすために活用してきた、ソーシャルワーク理論体系のスライド資料をご紹介します。

後半は、介護保険ケアマネジメントとソーシャルワークとの相違点について、自らの職場や社会福祉士会、ケアマネ協会などの他職種への説明責任をはたすために活用してきた、業務の根拠となるスライド資料をご紹介します。また、地域包括ケアシステムや地域共生社会の実現などの社会変革について、「社会システム」と「社会福祉事業所」及び「社会福祉士」の側面から、その現状と課題や近未来のあり方についてスライド資料をご紹介します。

■到達目標

１）ジェネラリストソーシャルワークの説明ができる。
２）ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの説明ができる。
３）介護保険ケアマネジメントとソーシャルワークとの相違点の説明ができる。
４）社会システムと社会福祉事業所、社会福祉士の現状と課題や近未来のあり方の説明ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「開発・創造力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。パワーポイントの配付資料を使用します。

【参考図書】

１）前半の授業：これまで受講した各先生の講義復習（専門性：価値観・知識・技術）

２ ）後半の授業：厚生労働省等ホームページ（近未来に求められる新たな技術改革）

2013 年：21 世紀（2025）日本モデル（コミュニティ再生）、2015 年：2035 年の医療保健システム、2015 年：新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン（全世代・全対象型地域包括支援体制・高齢者対象の地域包括ケアを深化させ地域包含体制構築）、2016 年：ニッポン一億総活躍プラン（地域共生社会の実現）、2016 年：「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部（地域共生社会の実現）、2017 年：ますます求められるソーシャルワーク機能、2017 年：2040 年に向けた挑戦（地域包括ケア）、2018 年：2040 年の自治体戦略、2018 年：社会的につながりが弱い人への支援、2019 年：地域共生社会推進検討委員会（最終とりまとめ）、2020 年：社会福祉士の倫理綱領（2021 年：社会福祉士の行動規範）、2020 年：地域共生社会実現の法律案（自治体改革の包括的支援・重層支援）、2021 年：社会福祉士養成課程の教育内容等の見直し、直近の制度改正等

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	ジェネラリストソーシャルワーク①	ソーシャルワークのシステム化（職種間連携のための仕組み）
2	ジェネラリストソーシャルワーク②	ソーシャルワークの価値と知識（職種間の意思統一と考え方共有）
3	ジェネラリストソーシャルワーク③	ソーシャルワークの技術（実践モデルとアプローチの考え方共有）
4	ジェネラリストソーシャルワーク④	ソーシャルワークの価値と知識と技術（一体的体系的な構造化）
5	介護保険とソーシャルワーク①	介護保険ケアマネジメント（ソーシャルワークとの相違点）
6	介護保険とソーシャルワーク②	地域包括ケアの深化と地域包含体制の構築（新たなエリア制度）
7	介護保険とソーシャルワーク③	地域共生社会とコミュニティデベロップメント（まちづくり）
8	介護保険とソーシャルワーク④	自治体改革重層支援と福祉署の近未来（社会福祉士の課題）
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントの配布資料を使用します。現場実践の事例紹介を通して、班編成によるグループ討議や、双方向対話的なコミュニケーションで講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況５０％＋スクーリング試験５０％（持込可）。スクーリング試験はレポート課題とし、とくに授業で「気づいたこと」や「考えたこと」を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

介護保険自体の講義ではありません。皆さんの、これまでの、そしてこれからの学びが「実践現場でどのように活用されるか」と「介護保険が向かう近未来に必要な方法論」を学ぶ講義です。皆さんがこれまで受講した各先生の資料や、厚生労働省などの将来ビジョンの資料に目を通してくると講義の理解が深まります。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

「到達目標」に記載されている内容の理解を深め、新たな地域福祉時代の構築に向けて、実践現場で発揮しなければならない専門的力量を確認し、高めていってください。

■担当教員紹介

佐々木裕彦　社会福祉法人岩手和敬会参与・社会福祉法人東北福祉会評議員・岩手県社会福祉士会相談役
岩手県介護支援専門員協会顧問・東北福祉大学特任教授・岩手県立大学大学院非常勤講師
日本総合研究所社会福祉士養成所通信課程非常勤講師